

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり 1階		
所在地	岐阜県多治見市市之倉町13丁目83番地353		
自己評価作成日	平成22年2月16日	評価結果市町村受理日	平成22年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191100052&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191100052&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

となりの、ひまわり幼稚園とのふれあいで優しい気持ち、元気をもらい毎日の生活にはりを持っていただく。外出の機会を多く持ち季節を肌で感じ充実した日々を過ごしていただく。新鮮で良質な食材を使い季節感のある家庭的な献立で満足していただいている。季節ごとの行事や紅葉狩りや花見で外出の機会を多くして季節感を味わっていただけるようにつとめている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域における幼児教育と高齢者と一体化した総合福祉施設であり、隣接の幼稚園と2階建てのホーム建物外観はベージュ色で統一されている。開設2年目のホームは、熱意あふれる管理者を中心に、職員とともに園児たちと触れ合う中から利用者は生きる力をもらい、互いの利点を活かしながら、地域の中で生活を支えている。幼児教育と高齢者介護を融合した経営で職員教育も大学と連携しながら、地域福祉の拠点作りを目指しているこれからの時代の先駆けとなる新しいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これからの課題で実践できていない	地域密着型サービスとして高齢者ケアの理念を現在検討中である。	総合福祉ひまわりの中で、グループホーム独自の理念を作りあげ、職員で共有し実践していけることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流はなされていない。1か月に一度地域交流会を開催してそこからの拡がりを持つ努力をしている	月1回の地域交流会は手遊びや楽器演奏、マジックなど、地域の人とともに楽しんでいる。近くの公民館で毎週開催している産直の野菜販売の出かけたり、町内会主催の夏の行事に参加している。ホームの情報は町内各班にチラシを配布し、ホームの催しにも参加してもらい、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	計画を立てつつあるが、まだ実践はしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のご意見は大切にしてサービス向上に活かす努力をしています	町内会長・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員・利用者の家族・職員の参加で、小規模多機能施設と合同の会議を2か月に1回開催している。利用者の現状や職員の研修報告や家族の意見など話し合い、運営に活かしている。	運営推進会議で出された「ホームが町民を対象にした認知症学習会を開催」の提案は、運営推進会議でさらに具体化し、認知症予防も含めて地域にあった方法で、是非企画されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営委員会に出席していただいた時と、常に困った時には積極的に相談して協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当課や地域包括支援センターと連携を取りながら、困難ケースの解決に向けて、いつでも相談できる体制が出来上がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護の仕事が初めての職員が多く正しく理解している職員は少ないが常に拘束にならないかどうかは管理者、リーダーが話し合っている。今後研修を予定している。	身体拘束しないケアを職員間で話す機会を作るように努力をしている。	一部の職員だけの理解にとどまらず、全職員で統一したケアを実践できるよう、外部・内部研修を受講し、職員全体で拘束をしないケアの在り方を共有されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現場での虐待を見過ごすことのないように注意をしています。資料を整え研修の機会をもつように計画しています		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーは研修に参加し活用に備えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族のご意見は運営会議で検討事項で表しています。また皆様の声、苦情箱を玄関に設置しています。	家族の意見や苦言を大切な意見としてとらえ、利用者が快適に生活できるようにケアの注意点に挙げ、支援している。管理者は、家族が意見を出しやすい関係作りに気配りしており、運営会議に参加して意見を出してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見を充分聞くようにしています。その内容によって施設会議で話し合いをし反映できるようにしています	月1回の職員会議を各フロアごとに行い、パート職員も全員参加し、意見を吸い上げ、運営に活かす努力をしている。職員間で積極的な意見交換のできるホーム作りを目指している。	管理者が交代したばかりで、今回の自己評価は管理者が作成している。職員全員で自己評価票を取り組むことで、さらに職員の意見を引き出す機会とされたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者については事務長の一任評価であるが職員に関しては個人査定表で毎月管理者が評価をしており、その結果は給与に反映される仕組みを平成21年10月より実施している。様式は社内作成で40項目ある。22年度からジョブ評価を導入する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は計画性のない研修:実習:講習をしてきました。平成22年度からはキャリア形成訪問指導制度を導入します。職員を4種類に分けたコースで全員が岐阜経済大学並びにあじさい学園のOJTとOFF-JTを年間通して実施します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	副事務長が他施設の見学訪問を実施しており、交流を深め施設の質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自ら言える人は少ないが普段の交わりの中からくみ取り対処しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で家族の思いを聞き、以後面会時、電話等で常に連絡し合い良い関係をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で支援を見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支えあえる関係を築くには職員のしっかりした介護の考え方が重要なので研修を充実するが現場では数人の職員がその立場に立ち実践している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に、ご家族に連携をとりご家族の立場を理解し意見、思いを聞きながらいい関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで暮されてみえた場所へ行くことはあるけれども、それ以上の関係が築かれてはいない。こちらから行く事は少ないが中には、決まって馴染みの方が訪ねて来られる利用者様がある。これからは馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援していきたい。	一人暮らしの利用者は、家族の協力を得て、自宅に時々出かけており、近隣関係は継続している。また、馴染みの友人・知人は、ホームを訪れ、会話を楽しんでいる。関係を継続できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出の機会を通し利用者同士が関わりあえるように支援。お互いがわかり合えるように可能な限り情報も共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方が少ないのでまだこれからです		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望、意向が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から声掛けし把握に努め本人本位のケアができるように努めている	日常生活のケアの中で、何気ないつづやきや言葉を吸い上げている。新設の駅を見に行ったり、22年2月2日に何か記念行事をしたいと利用者から要望で、その日に合わせたゲームやイベントを行うなど、思いや希望をすぐ実践につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話や行動の中から生活歴等についての情報をみつけるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から本人の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き反映させるようにしている。職員会議で意見交換して介護計画を作成している	家族の面会や電話等、連絡の機会をとらえて思いや要望を聴き、職員会議で検討し、介護計画を作成している。日常のケアのポイントなどをまとめた担当職員からの意見も計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の記録や気づきを介護記録や申し送りノートに記載して、情報共有を徹底し見直しや意見交換を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院等必要に応じて支援している		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供や音楽療法、マジック、ダンス等、ボランティアの協力で楽しい時間を提供し、グループホーム以外の人との関わりを持てるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院への受診をしている基本的に家族対応の受診となっているが、都合の悪い時は職員が付き添い受診している。主治医との医療連携もしている	かかりつけ医は家族や利用者の希望する医療機関を選択し、家族の協力を得ながら、通院の同行をしている。協力整形外科医は月1回、協力内科医は週1回の定期往診があり、利用者の健康管理が行われている。日常的には看護職員が健康管理や緊急対応に献身的に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と常に連携し対応している。急変時24時間体制で対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は様子を見に行き状態を把握し、家族にも連携し退院後に安心して暮らせるように病院との情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、については、入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間対応の医療連携を整えたいと準備中です	終末期に向けた指針は明文化され、契約時に家族に説明している。一部の職員は看取りを行う意思があるがホームの力量に応じて職員間でケアについて踏み込んだ検討の途中段階である。	職員間で看取りや終末期について十分な話し合いをし、全職員の意思統一を図り、共通認識で取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの提示、消防署の行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実地している。まだ実践力は付いていないので定期的に訓練、研修会を行う予定をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防の協力の下で訓練を行っている。	年に2回、地域の参加協力を得て、防災訓練を実施している。夜間の災害を想定した訓練も実施している。マニュアルも作成し、見直しもしている。小規模多機能の利用者も含め、防災意識を高めている。AEDが設置され、いつでも使用できる体制ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの折に職員の意識向上を図っている。利用者のプライバシーを損ねない対応を心がけている。職員の対応をみてすぐ指摘するようにもしている	トイレ誘導や口腔ケアの時も利用者の横でプライバシーに配慮した声かけを職員はしている。管理者は職員が利用者の誇りを損ねるような対応をした場面を見た時には、利用者の視線から離れた部屋で、参考資料を見せたり、口頭で注意をするなど、職員教育に努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択できるような対応を心がけているが十分ではなく職員の研修が必要です		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが作ってありそれに沿って対応しているが、自分のペースで過ごされる方もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は利用者を選んでもらうようにしているが本人が選べる方は少ない。2か月に一度理美容を利用できるように連携をとっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じテーブルを囲んで食事をしている。出来る方には配膳や食後の後かたづけを一部手伝ってもらっている。	各テーブルに職員が付き、4人の利用者の食事状態を見守りながら、その人のペースに合わせたケアをしている。途中で箸が進まない人にも静かに声をかけている。利用者の体力低下がおきてきているので、準備や配膳・下膳のできる人が少なくなっているが、食後の会話は楽しく弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事摂取量を把握している。利用者個々の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの手伝いをしている。入れ歯の方は自分で洗われた後、職員がみて清潔保持している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し一人ひとりの排泄習慣、リズムをつかみ、おむつ使用を減らし排泄の自立にむけた支援をしている。	排泄チェック表を活用し、排泄リズムに合わせ、できる限りトイレでの排泄を支援している。安全に睡眠をとってもらう配慮から、夜間のみポータブルトイレを利用することも検討したが、現在は、夜間もトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と毎朝の体操で、便秘対策に取り組んでいる。下剤使用の方は常用するのではなく個々に応じた使用量、頻度で使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に希望に合わせて入浴はできていないが、できるだけ希望に沿うように本人の意思を確認して入浴していただいている	入浴は利用者の希望や体調を確認しながら支援している。男性スタッフもあり、利用者や家族に介助の意向や要望を聞きながら、同性によるケアを心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体の状態に合わせ、休息していただいています。本人が個々の体調に合わせて休息されている方もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は記録と一緒に職員がすぐ確認できる状態にあり看護師とも連携し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	数人は趣味(編み物、手芸等)自ら好みの物を購入し楽しんで暮らされている。お茶の時間は好みの飲み物を聞き用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞きドライブ、外食、公園等出かける機会を多くつくっている。家族にも協力してもらいでかける時間を持つように支援している	1階の利用者と2階の利用者では、外出頻度に差がみられるが、自然環境に恵まれており、比較的交通量が少なく、近くの神社や公園や裏山を通る散歩コースがある。食材の買い物や馴染みの手芸店へ欲しいものを買うに行くなど、利用者の外出機会は多い。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の方がお金を所持し使いたい時に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は自分で書ける方には書いていただきました。手紙も書きたい方には支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間兼食堂は1フロアからなり居間にはソファも置いてある。畳コーナーもあり廊下は比較的広く開放感がある。フロアは掃き出しのサッシで陽もよく当たり気持がよい。壁には、利用者との共同で作成した作品が貼ってあり季節感のあるフロアとなっている	階段には、利用者が共同で制作したちぎり絵作品が掲示され、サッシ窓は大きく自然光が差し込み、周りの自然な景色を常に目にすることが出来る。広い居間兼食堂には畳コーナーやソファが置いてあり、利用者が自分の居心地のいい場所で寛ぐことで出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがおいてあり仲の良い利用者が一緒に座りくつろいでみえる。廊下の突き当たりに椅子が置いてありそこから幼稚園が見えるので座って眺めてみえる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が置いてあり自宅にいるような感覚になれるように配慮している。	居室は、利用者の好みで使用しやすいように、家具が配置してある。観葉植物を育てる趣味のある人はいくつもの鉢を増やして、癒されている。位牌や馴染みのものを持ち込み、自宅と同様の生活を継続している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から本人の現状把握に努めている出来ること、出来ないこと、わかること、わからないことを把握して状況に合わせて環境整備している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり 2階		
所在地	岐阜県多治見市市之倉町13丁目83番地353		
自己評価作成日	平成22年2月16日	評価結果市町村受理日	平成22年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これからの課題で実践できていない		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流はなされていない。1か月に一度地域交流会を開催していてそこからの拡がりを持つ努力をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	計画を立てつつあるが、まだ実践はしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のご意見は大切にしてサービス向上に活かす努力をしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営委員会に出席していただいた時と、常に困った時には積極的に相談して協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護の仕事が初めての職員が多く正しく理解している職員は少ないが常に拘束にならないかどうかは管理者、リーダーが話し合っている。今後研修を予定している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現場での虐待を見過ごすことのないように注意をしています。資料を整え研修の機会をもつように計画しています		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーは研修に参加し活用に備えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族のご意見は運営会議で検討事項で表しています。また皆様の声、苦情箱を玄関に設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見を充分聞くようにしています。その内容によって施設会議で話し合いをし反映できるようにしています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者については事務長の一任評価であるが職員に関しては個人査定表で毎月管理者が評価をしており、その結果は給与に反映される仕組みを平成21年10月より実施している。様式は社内作成で40項目ある。22年度からジョブ評価を導入する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は計画性のない研修・実習・講習をしてきました。平成22年度からはキャリア形成訪問指導制度を導入します。職員を4種類に分けたコースで全員が岐阜経済大学並びにあじさい学園のOJTとOFF-JTを年間通して実施します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	副事務長が他施設の見学訪問を実施しており、交流を深め施設の質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自ら言える人は少ないが普段の交わりの中からくみ取り対処しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で家族の思いを聞き、以後面会時、電話等で常に連絡し合い良い関係をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で支援を見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支えあえる関係を築くには職員のしっかりした介護の考え方が重要なので研修を充実するが現場では数人の職員がその立場に立ち実践している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に、ご家族に連携をとりご家族の立場を理解し意見、思いを聞きながらいい関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで暮されてみえた場所へ行くことはあるけれども、それ以上の関係が築かれてはいない。こちらから行く事は少ないが中には、決まって馴染みの方が訪ねて来られる利用者様がある。これからは馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援していきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出の機会を通し利用者同士が関わりあえるように支援。お互いがわかり合えるように可能な限り情報も共有している		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方が少ないのでまだこれからです		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望、意向が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から声掛けし把握に努め本人本位のケアができるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話や行動の中から生活歴等についての情報をみつけるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から本人の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き反映させるようにしている。職員会議で意見交換して介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の記録や気づきを介護記録や申し送りノートに記載して、情報共有を徹底し見直しや意見交換を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院等必要に応じて支援している		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供や音楽療法、マジック、ダンス等、ボランティアの協力で楽しい時間を提供し、グループホーム以外の人との関わりを持てるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院への受診をしている基本的に家族対応の受診となっているが、都合の悪い時は職員が付き添い受診している。主治医との医療連携もしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と常に連携し対応している。急変時24時間体制で対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は様子を見に行き状態を把握し、家族にも連携し退院後に安心して暮らせるように病院との情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、については、入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間対応の医療連携を整えたいと準備中です		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの提示、消防署の行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実地している。まだ実践力は付いていないので定期的に訓練、研修会を行う予定をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防の協力の下で訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの折に職員の意識向上を図っている。利用者のプライバシーを損ねない対応を心がけている。職員の対応をみてすぐ指摘するようにもしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択できるような対応を心がけているが十分ではなく職員の研修が必要です		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが作ってありそれに沿って対応しているが、自分のペースで過ごされる方もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は利用者を選んでもらうようにしているが本人が選べる方は少ない。2か月に一度理美容を利用できるように連携をとっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じテーブルを囲んで食事をしている。出来る方には配膳や食後の後かたづけを一部手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事摂取量を把握している。利用者個々の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの手伝いをしている。入れ歯の方は自分で洗われた後、職員がみて清潔保持している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し一人ひとりの排泄習慣、リズムをつかみ、おむつ使用を減らし排泄の自立にむけた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と毎朝の体操で、便秘対策に取り組んでいる。下剤使用の方は常用するのではなく個々に応じた使用量、頻度で使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に希望に合わせて入浴はできていないが、できるだけ希望に沿うように本人の意思を確認して入浴していただいている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が体調をみて休息をとっていただいている。居室へは自由に入れるので本人の体調不良の時は自分で行かれている方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は記録と一緒に職員がすぐ確認できる状態にあり看護師とも連携し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	数人は趣味(編み物、手芸等)自ら好みの物を購入し楽しんで暮らされている。お茶の時間は好みの飲み物を聞き用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞きドライブ、外食、公園等出かける機会を多くつくっている。家族にも協力してもらいでかける時間を持つように支援している		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2階は9名とも職員で管理している。1階は3名の方がお金を所持し使いたい時に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は自分で書ける方には書いていただきました。手紙も書きたい方には支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間兼食堂は1フロアからなり居間にはソファも置いてある。畳コーナーもあり廊下は比較的広く開放感がある。フロアは掃き出しのサッシで陽もよく当たり気持がよい。壁には、利用者との共同で作成した作品が貼ってあり季節感のあるフロアとなっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがおいてあり仲の良い利用者が一緒に座りくつろいでみえる。廊下の突き当たりに椅子が置いてありそこから幼稚園が見えるので座って眺めてみえる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が置いてあり自宅にいるような感覚になれるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から本人の現状把握に努めている出来ること、出来ないこと、わかること、わからないことを把握して状況に合わせて環境整備している。		